

2021 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎ 2 段階選抜実施状況

**□ 第 1 段階選抜不合格者数は中期・後期で大幅増加
不合格者数最多は前期が東京大、中期・後期では岐阜大**

〔 2 段階選抜実施状況(不合格者数) 〕

	前期				中期・後期				合計			
	2021年度	2020年度	増減数	指数	2021年度	2020年度	増減数	指数	2021年度	2020年度	増減数	指数
国立大	1,448	1,730	-282	84	3,546	1,879	+1,667	189	4,994	3,609	+1,385	138
公立大	691	408	+283	169	605	503	+102	120	1,296	911	+385	142
合計	2,139	2,138	+1	100	4,151	2,382	+1,769	174	6,290	4,520	+1,770	139

〔 2 段階選抜不合格者数の多い上位 10 大学 〕

順位	前期				中期・後期			
	2021年度		2020年度		2021年度		2020年度	
	1	東京大	482	東京大	605	岐阜大	762	一橋大
2	東京都立大	445	東京都立大	326	電気通信大	480	岐阜大	268
3	愛媛大	201	大阪大	186	東京都立大	413	奈良県立医科大	226
4	一橋大	149	高知大	149	千葉大	351	山梨大	206
5	福島県立医科大	142	熊本大	113	一橋大	261	東京都立大	195
6	信州大	94	大分大	90	東北大	198	東京工業大	162
7	千葉大	83	浜松医科大	88	宮崎大	176	福井大	142
8	旭川医科大	78	秋田大	87	浜松医科大	157	旭川医科大	127
9	金沢大	64	一橋大	62	山梨大	157	宮崎大	111
10	高知大	53	千葉大	61	奈良県立医科大	146	東京医科歯科大	105
全体	2,139		2,138		4,151		2,382	

2 段階選抜の第 1 段階選抜不合格者数は、前年度は全体で 2,800 人以上減少しましたが、今年度は全体で 1,770 人(139)、前期で 1 人増加、中期・後期で 1,769 人増加となりました。共通テストの平均点アップにより、比較的強気な出願が行われたことがうかがえます。

前期では 2,139 人で、国立大は 282 人(84)の 2 年連続大幅減少、公立大は 283 人(169)の大幅増加でした。大学別では、東京大が文二を除き 2 段階選抜を実施し、2 年連続不合格者数最多となりましたが、不合格者数は 605 人→482 人(80)と大幅減少しました。2 番目に多かったのは東京都立大ですが、志願者数は減少しましたが不合格者数は 326 人→445 人と大幅増加しました。3 番目に多かったのは愛媛大で、前年度実施はありませんでしたが、医(医)が後期を廃止して前期の募集人員を 40 人→55 人と 15 人増加(募集人員前年度対比指数 138)し、志願者数が 306 人→531 人(174)と激増したため 201 人の不合格者が出ました。

中期・後期では 4,151 人で、国立大は 1,667 人(189)の激増、公立大は 102 人(120)の大幅増加でした。大学別では、岐阜大が不合格者数最多でした。医(医)の志願者が前年度大幅減少の反動で、645 人→1,141 人(177)の激増となり多くの不合格者が出ました。2 番目に多かったのは電気通信大です。志願者数は 49 人減少(98)でしたが、コロナ対策による試験教室の定員減により、2 段階選抜が実施されました。なお、2016 年度の学域入試に変更してから 2 段階選抜を実施するのは初めてのことです。

なお、2022 年度入試での出願にあたっては、2 段階選抜実施の有無、予告倍率の変更などに注意を払うとともに、第 1 段階選抜合格者数の実数をチェックして、予告倍率通りに実施されたか、それとも緩和されたかを把握したうえで出願校を決定することが大切です。さらにこれに加えて、コロナ禍の状況により、試験教室

2021 年度入試状況分析【国公立大】

の使い方も変わってくるので、例年以上に大学からの発表への注意が必要です。